



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 道路事業】

事業名	快適で安全な道づくり事業
事業箇所	一般国道408号 宇都宮市野高谷町 <small>のごやまち</small> ～高根沢町宝積寺 <small>ほうしゃくじ</small> 宇都宮高根沢バイパス L=6,600m
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 道路整備課

事業の概要

【目的】

国道408号宇都宮高根沢バイパスは、常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域道路である。

本工区の周辺においては、本県の産業を牽引する鬼怒川左岸地域の工業団地群が立地し、現道及び周辺道路においては、物流や通勤等による慢性的な渋滞が発生している。

このため、当該バイパスを整備することにより、本地域の円滑な通行を確保するとともに、地域間の交流・連携の強化や産業活動の支援等を図るものである。

【事業概要】

※（ ）は前回評価時

目標事業期間	平成21年度～令和 9年度
事業経過	平成21年度 事業着手 平成29年2月 1期工区開通（暫定2車線） 令和元年5月 2期工区開通（暫定2車線） 令和2年度 再評価（前回） 令和4年5月 1期工区開通（完成4車線） 令和6年度 再評価（今回）
全体事業費	(283.0 億円 [うち用地補償費 30.2億円]) 347.0 億円 [うち用地補償費 30.2億円]
事業延長	L = 6,600m [うち完成4車線整備済み L = 2,700m]
進捗率	基準年次：【令和6年度末時点】 費用 進捗率 既投資事業費 264.2億円 76% [うち用地補償費 30.2億円 100%]

【事業概要図】



事業の概要

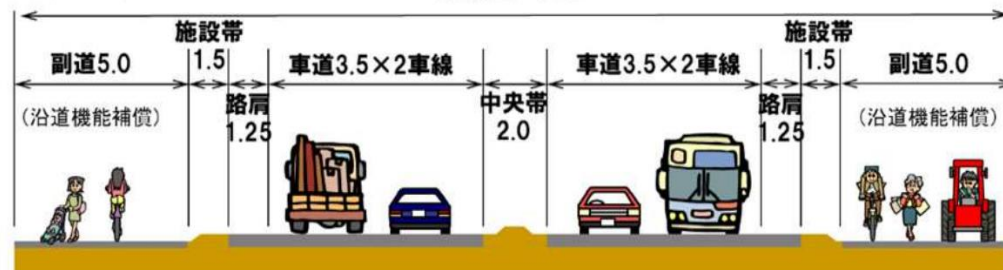
【事業内容】

事業延長	6,600m
標準幅員	31.5m ※横断構成は標準横断図のとおり
道路区分	第3種第1級
車線数	4車線
計画交通量	35,100台/日 (R22推計値)

標準横断図

総幅員 31.5

単位：m



現況写真

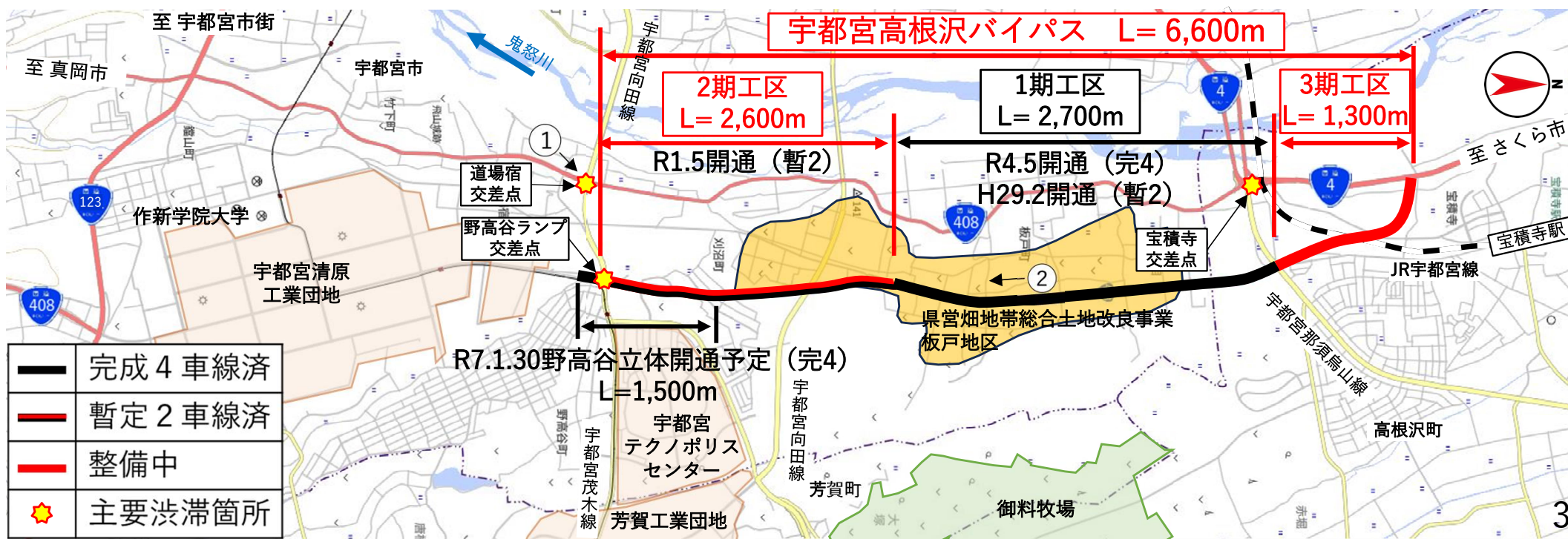
①道場宿交差点 渋滞状況



②整備済み



平面図



II 事業の評価

【全体事業費の見直し】

		前回計画 (R2年度)	⇒	今回計画
	全体事業費	283.0億円	⇒	347.0億円 (+ 64.0億円)
内	工事・測量設計費	252.8億円	⇒	316.8億円 (+ 64.0億円)
訳	用地補償費	30.2億円	⇒	30.2億円 (± 0億円)

■工事費

- ① 建設資材、労務単価の高騰等による工事費の増額 + 58.0億円
- ② 常設足場の追加に伴う工事費の増額 + 2.0億円
- ③ 地盤改良工の固化材の変更に伴う工事費の増額 + 4.0億円

II 事業の評価

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B/C	総便益(B)	総費用(C)
(1)事業全体	1.4	555億円	395億円
(2)残事業	2.5	193億円	76億円

注) B/Cの値は表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

2 事業の整備効果等

- ・ 広域的な交流・連携の促進と地域の産業支援
- ・ 渋滞緩和による交通円滑化
- ・ 災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路としての機能強化

【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- ・ 跨線橋の新設にあたり、常設足場を設置することで、ライフサイクルコストの縮減を図る。
- ・ 再生材の利用や建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。

2 代替案立案等の可能性

- ・ 全体区間のうち、約80%が完成4車線又は暫定2車線で供用済みであり、代替案立案は困難である。

【事業の対応方針（案）】

本計画で事業を継続する。